

気 象 庁
平成 28 年 1 月 20 日

竜巻等突風の強さの評定に関する検討会（第 6 回）の議事概要について

1 . 開催日時及び場所

日 時：平成 27 年 12 月 21 日（月）13:00～15:00

場 所：気象庁大会議室

2 . 出席者

会長 田村 幸雄 東京工芸大学 名誉教授
会長代理 新野 宏 東京大学大気海洋研究所海洋物理学部門
海洋大気力学分野 教授
伊藤 優 株式会社日本設計構造設計群 常任技術顧問
奥田 泰雄 国土技術政策総合研究所建築研究部
建築新技術統括研究官
喜々津仁密 国立研究開発法人建築研究所構造研究グループ
主任研究員
坂田 弘安 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻 教授
小司 禎教 気象研究所気象衛星・観測システム研究部 第二研究室長
鈴木 覚 国立研究開発法人森林総合研究所気象環境研究領域
気象害・防災林研究室長
前田 潤滋 九州大学大学院人間環境学研究院 教授

気象庁 赤枝観測部長、森計画課長、横田情報管理室長
鈴木観測課長
瀧下情報管理室課長補佐、田中突風災害対策情報調整官

3 . 議事

- (1) 日本版改良藤田スケールに関するガイドライン案について（資料 1 関連）
- (2) 検討会の今後について（資料 2 関連）

4 . 議事概要（別紙）

議事概要

(1) 日本版改良藤田スケールに関するガイドライン案について (資料 1 関連)

藤田スケールによって評定された過去の竜巻等突風について、日本版改良藤田スケールによる再評定は行うのか。

(気象庁) 日本版改良藤田スケールと藤田スケールでは、同じ突風被害に対応する階級は基本的に同じになることから、過去の竜巻等突風について日本版改良藤田スケールによる再評定は行わない。

風工学の研究者等が、過去の竜巻等突風による被害から風速値を評価し設計等に役立てたいとする場合などに、このガイドラインを活用してもらえばよい。

参考資料 1 の 6 ページの被害指標、鉄骨造倉庫の被害度 3 番と 4 番それぞれについて、風速値の昇順に被害度を並べる観点から、「開口ができていた場合」を上、「開口ができていない場合」を下にした方がよい。

(気象庁) ご指摘の通り修正する。

参考資料 1 の 22 ページの被害指標、「木造・樹脂・アルミ製フェンス」について、「木製・樹脂製・アルミ製フェンス」としたほうがよい。

(気象庁) ご指摘の通り修正する。

ガイドライン本文 9 ページの最後の文章で、日本版改良藤田スケールの各階級の風速値を示す数式があるが、JEF5 には上限となる風速がないことを明記した方がよい。

(気象庁) 階級の上限となる風速値は JEF4 までで定義されることを明記する。

ガイドライン本文 14 ページの参考文献の最後について、“Periodsin” となっているが、“Periods in” に修正いただきたい。

(気象庁) ご指摘の通り修正する。

指摘のあった修正を加えた上で、日本版改良藤田スケール及びガイドラインについて了承する。

(2) 検討会の今後について (資料 2 関連)

検討会の継続に関して、委員の構成は今後も変わらないのか。また、関連研究の進展にあわせて検討する項目があるが、関連研究の関係者が参加する余地はあるのか。

(気象庁) 委員の構成は基本的に現在の構成を考えているが、詳細は今後ご相談しながら検討していきたい。また、関連研究の関係者の参加について、現在の検討会も会長が必要と判断した場合は検討会委員以外の者を召集することが可能となっており、この方法を継続したい。

来年度以降、必要に応じガイドラインの評価や見直しを行うため、本検討会を継続することを了承する。

以上